

令和4年度 事業 報告

1 概 要

令和4年度は、新型コロナウイルス感染拡大（以下「新型コロナ」という。）の3年目となり、当センターにおいても前年度に続き大きな影響を受けた1年となりました。

特に、オミクロン株が感染の主流となり当初計画されていた事業の中止や縮小など感染防止対策を行う中で適切な事業運営に努めたところであります。しかし国では5月8日から、季節性インフルエンザと同じ「5類」に引き下げることが決定され、これまでの対策と大きく変わることとなりますので、国や県などの動向を注視し、今後のシルバー事業運営に取り組む必要があります。

県内の経済動向・雇用情勢は、「一部に弱い動きがみられるものの、持ち直しの動きが続いている。」（日銀松本支店4月）とされ、中信地区の2月有効求人倍率では1.67倍（長野労働局3月）と前年同月0.18ポイント増となっておりますが、今後も資源価格高騰などによる物価上昇等の影響により、シルバー事業も引続き厳しい状況が続くことが懸念されるところであります。

一方、少子高齢化・人口減少が急速に進む中、社会経済の活力を維持するためには、働く意欲のある高齢者が年齢に関わりなく活躍できる環境の整備がますます重要となっております。

シルバー人材センターでは、会員に働く機会を確保・提供し、会員の経済的な安定や生きがいの充実、健康の維持・増進を図っていますが、会員による地域の担い手や現役世代の支え手としての活躍により、センターに向けられる地域の期待も一層大きいものとなっております。

しかし会員の減少、後継者不足等から仕事の依頼に応じられないケースや仕事のマッチングに至らない状況が顕在化し、後継者育成を含めた会員の確保や多様な就業機会の確保が全国的にも大きな課題となっております。

こうした状況の中、令和2年度に策定した中期計画に基づき、「地域の発展をささえる力強いセンター」の実現を目指し、諸事業の推進に努めてきました。

当センターの令和4年度の実績を見ると、全国で「第2次会員100万人達成計画」の取組みを進めている会員拡大については、病気や加齢を理由とする退

会者が増加したことから、会員数は619人(対前年度比21人減、3.3%減)と、5年連続の減少となりました。

令和3年4月に改正高齢者雇用安定法が施行され、65歳までの雇用確保義務に加え、65歳から70歳までの就業機会の確保が事業主の努力義務とされるなどの社会状況の変化もあり、5年前と比べ入会平均年齢が3.3歳上昇し71.2歳に、全体の平均年齢も2.0歳上昇し74.7歳となり、会員の高齢化が退会の大きな要因となる傾向が続くことが危惧されるところであります。

契約状況については、新型コロナの影響による施設の閉鎖や厳しい経営環境による雇止め・就業時間短縮などの大きな影響を受けるなか、全体としては3億5,578万円(対前年度比578万円増、1.7%増)となり、わずかではありますが前年度を上回ることができました。

また、本格実施となって8年目となる派遣事業については、着実に実績を重ね6,793万円(対前年度比515万円増、8.2%増)と大きな伸びとなりました。

安全就業については、機会あるごとに安全就業を呼びかけ繰り返し注意喚起を行ってきましたが、前年度より13件多い17件(傷害5件、賠償12件)発生しました。今後も事故ゼロを目差し、安全就業を最優先課題として事故防止に努めて参ります。

シルバー事業の運営に大きな影響を及ぼすインボイス制度施行に向けての対応につきましては、市村関係者に支援要請を行うとともに、予定通り制度が実施された場合に備え、出来る限り事業運営に支障をきたさないよう会員等への制度内容の周知に努めるとともに、理事会で対応方針について協議を重ねたところであります。

以下、令和4年度の個別事業実施状況については次のとおりです。

2 事業の実施状況

(1) 会員の確保・拡大

- 入会説明会を原則月1回実施するとともに、本年度は年度切替えの2カ月間、月2回の実施とした。(14回開催：出席者120名、入会者71名)
- 退会者は92名となり、退会理由の57%が病気・加齢であった。
- 新規会員の増強に資することを目的とした、「新規会員紹介者報奨制度」を創設した。

- 毎月市村の広報及びハローワーク、地元新聞等に入会説明会開催等の情報を掲載した。
 - ホームページに新規求人情報を掲載した。
 - 後継者不足が心配される剪定については、新規会員を募集するため、高齢者活躍人材確保育成事業を活用し、剪定講習会を実施した。（9名参加）
- (2) 就業機会の確保・拡大
- 商工会議所を通じて企業等へ「シルバー活用術パンフレット」の配布を行った。（8月）
 - 塩尻市長、朝日村長及び両議会議長に対し、事業発注の拡大及び運営補助金の確保を要望した。（10月）
 - 独自事業の門松づくり、刃物研ぎ及びパソコン教室の積極的な取り組みを行った。
 - シルバーの活動に理解を頂くため、「シルバーの日」を中心に清掃等の地域ボランティア活動を実施した。（10月、254名参加）
また、就業機会拡大のため会員によるリーフレット配布を行った。
 - マスコミに取材によるシルバー活動状況の積極的な情報発信に努めた。
- (3) 安全・適正就業の推進
- 機会あるごとに安全就業を呼び掛けたが、本年度の事故件数は、前年度より13件多い17件（傷害5件、賠償12件）となった。
 - 新型コロナウイルス感染防止のため、会議やイベント等の開催を中止又は縮小した。
 - 病気の重篤化を防ぐため、特定健診等の定期的な受診を呼びかけた。
 - 会員の適正かつ公平な就業機会を提供するため、公共施設を対象に同一就業場所で5年を超える会員の交代募集を行った。
 - 安全・適正就業の具体的取組みは以下のとおり
 - ・安全就業対策委員会開催1回
 - ・安全衛生委員会開催3回
 - ・安全パトロール実施5回（9箇所）
 - ・職群班班長会開催1回（参加者30名）
 - ・草刈安全講習会1回（参加者24名）
 - ・剪定技能講習会1回（参加者5名）
 - ・安全運転講習会1回（参加者18名）

- ・「安全就業・適正就業に係る標語」の募集37点
- ・シルバーだより「あしなみ」(3回)
- ・安全推進だより「かわら版 安全・安心」5回
- ・安全ニュース(随時)
- ・産業医横山先生の健康便り第14回発行(1回)
- ・安全衛生便り9回

(4) 事業運営基盤の強化

- 公益法人としての適正な運営に向け、定期的に理事会及び班長会等を開催した。
- 令和5年10月からのインボイス制度導入予定に伴うセンターへの影響や事業運営に支障をきたさないようにするため、理事会にて令和5年4月から事務費を7%から9%に引上げ、今後の消費税納税相当額の財源確保を図るよう協議を行った。
10月には、最低賃金の改定が行われ、時間単価で31円引き上げられたことから、請負においても4月からの単価改正について、市・村をはじめ、継続契約いただいている事業所等との協議を行った。
また、予定通り制度が施行された場合に備え、出来る限り事業運営に支障をきたさないよう理事会にて対応策を協議するとともに、機会あるごとに会員への説明に努めた。
- 派遣事業会計業務の連合会への移行に向け、事務的課題等の整理を行うとともに、中シ協の各センターと対応方針等について意見交換を行った。
- 職員の資質向上に向け、中シ協各センターと共に職員研修会を開催した。
- 安定した事業運営に向け、将来予定される事業費に充てるため、余剰金を特定準備資金として積み立てることができた。
- 会員との意見交換のため、地区別懇談会を10地区で開催(1地区中止)し、出席者287人(出席率45%)であった。
- 新型コロナウイルス感染拡大のため、例年実施している中シ協役員研修会や役員及び班長会の先進団体視察は中止とした。
その他詳細については、次のとおりです。